

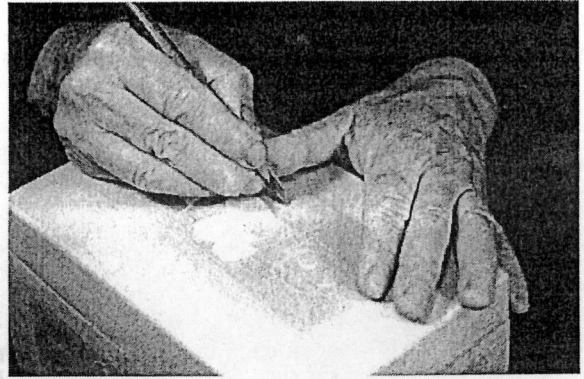
文部省特別選定

工芸技術記録映画シリーズ

- 25 -

きんま  
蒟醬

ひとし  
太田儔のわざ



企 画 文 化 庁  
製 作 日 経 映 像

(カラー・35mm・43分)

四国高松では、漆芸の彫刻刀を剣と呼びます。国の重要無形文化財「蒟醬」の保持者である太田儔氏は、多種多様の剣を巧みに活かし、自身が考案した「布目彫り蒟醬」の技法で独自の意匠を彫り出してきました。今回、太田氏は椿とメジロを意匠として配した藍胎蒟醬茶箱「春風」という作品を制作しました。およそ2年を費やしたこの作品の制作過程をカメラは追いかけていきます。

屋島のほitori、太田氏の工房では茶箱の制作が始まりました。「竹は・・・とっても美しいんですね・・・」と語る太田氏。竹ひごで編み上げられた藍胎の素地の柔らかさ、暖かさを表現してくれるのです。丁寧に、そして何度も漆が塗られ、寸分の狂いのないフォルムに仕上がった藍胎。意匠の彫りを待つばかりとなります。蒟醬は剣が命。抑揚があり、素朴な線を生む角剣と、切り込みの鋭さを表現する丸剣を巧みに使い分け、太田氏は独自の意匠世界をつくり上げます。研ぎすまされた剣先に、太田氏の神経は集中します。点描の技法にも似た独自の布目彫り、柔らかな色彩を表現する色漆の塗り、微妙な力加減で意匠を浮かび上がらせる研ぎ。この作業が何度も重ねられ、茶箱に「春風」が吹き込まれます。椿が花開き、メジロが羽を休める。又一つ、太田氏の新たな世界が誕生しました。



<スタッフ>

製作	小谷田 亘 佐藤 哲夫	撮影	大木 大介
監督	黒崎 洋一	照明	松橋 仁之
脚本	小谷田 亘	音楽	山崎 茂之

16ミリフィルム ¥200,000.- (税別)  
ビデオソフト ¥50,000.- (税別)